

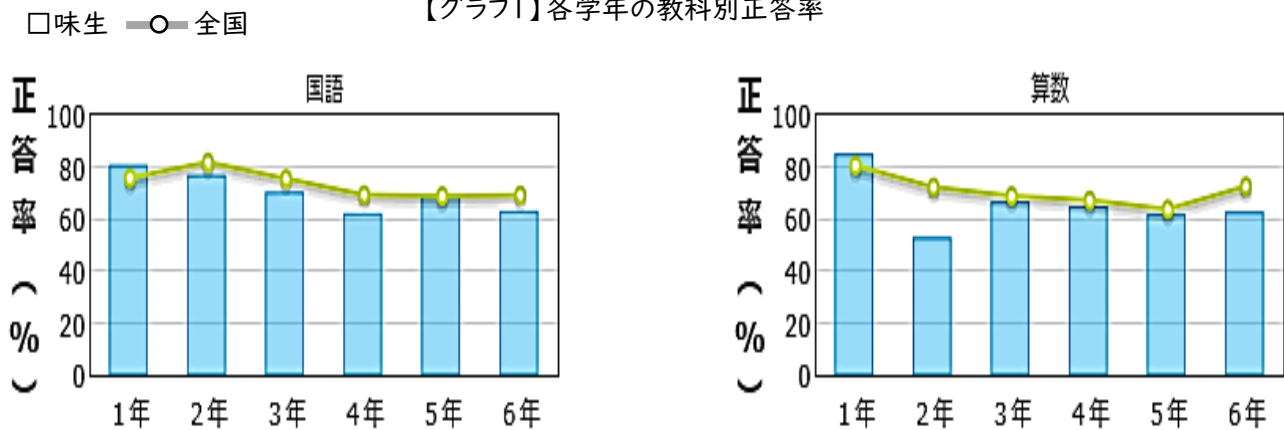


令和4年3月  
 摂津市立味生小学校  
 校長 大崎 貴子

いつも本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

令和3年12月8日に実施した摂津市学力定着度調査の結果を返却いたします。味生小学校全体では、平均正答率は全国のものと同程度かやや下回る結果でした【グラフ1】。各学年、小問別に正答率を見ると、全国を上回る問題もありました。この度、結果から見える国語科、算数科における成果と課題【表1】をまとめ、i-check(児童質問紙)の結果も踏まえ、今後の指導について検討いたしました。併せて、紙面を通してお伝えいたします。これからもよろしく願いたします。

【グラフ1】各学年の教科別正答率

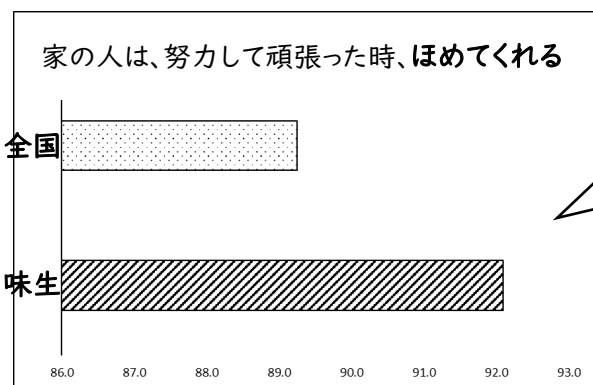


【表1】各教科の成果と課題

	国語	算数
成果	「書くこと」の領域で、全国を上回る結果が見られた。 ⇒ 普段の授業から条件を提示して文章を書く活動を多く取り入れた。 どんなことを書けばいいのか、しっかりとモデルを示し、見通しを持って学習に取り組むことができた。	小問別に見ると、全国平均を大きく上回る問題があった。 ⇒ 授業の中で様々な問題を解く機会を作った。 授業の中で考えを説明する機会を多く設定した。
課題	「読むこと」の領域、特に文章の要点を読み取る力、登場人物の心情を読み取る力に課題が見られた。 ⇒ 読む目的を明確にした授業づくりを行う。 低学年からの読書の習慣づけを行う。 漢字の読み書き ⇒ 国語科だけでなく、日常から漢字を使う指導を徹底するとともに、朝学習の時間の活用の仕方を見直す。	測定と図形の領域 ⇒ ものさしや分度器の目盛りを読む活動 形遊びの活動、物の量や長さや重さを予想し測定する活動などを取り入れ、図形や数値を「イメージ」できるように授業づくりを行う。 低学年から遊びの中で様々な経験を積むことで数的感覚を養う。 文章問題の図式化 ⇒ 問題の要点をとらえ、図式化する活動や、図式化されたものを説明する活動を授業の中で積極的に取り入れる。

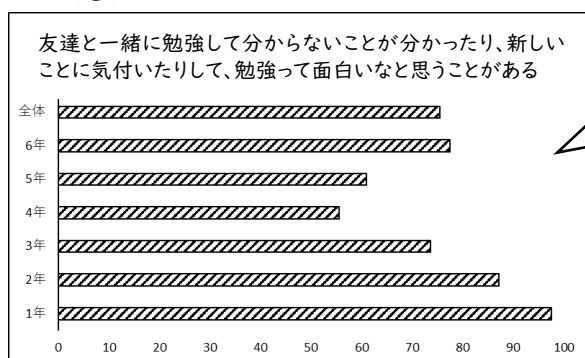
## i-check(児童質問紙)の結果より

### 自己肯定感 〔①〕



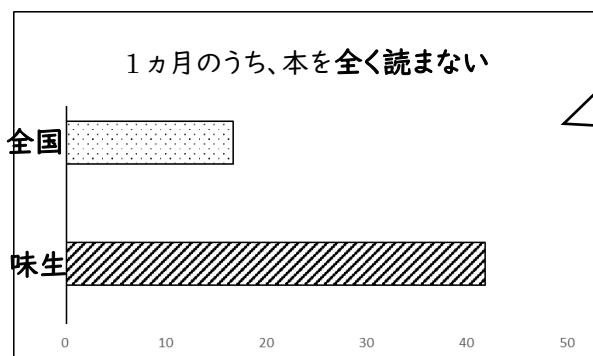
全国平均よりも高い結果でした。  
温かく子どもに寄り添い、気持ちを共感的に理解しようとされている保護者の皆様の姿勢が児童にきちんと伝わっています。

### 学習意欲 〔②〕



児童が仲間と学び合い、協働することで力をつけ、達成感を味わえるよう、学校全体で更に指導を充実させていきます。

### 読書習慣 〔③〕



全く本を読まない児童が40%以上という結果でした。  
本を読むことの面白さを感じ、自ら学びに向かう姿勢を養うため、学校では「朝の読書活動」や「お勧めの本を紹介しあう」などの取組みを行っています。お家でも絵本の読み聞かせをしたり、一緒に本を楽しむ時間を作ったりしてみてください。

i-checkで確認できる児童の自己肯定感〔①〕・学習意欲〔②〕・読書習慣〔③〕は学力の向上と大きく関係しています。

#### □自己肯定感 〔①〕

周りから認められたり、自分を認めることができたりすると、課題に対して、最後まで諦めずに挑戦する気持ちが強くなります。

#### □学習意欲 〔②〕

自分一人では解決する事が難しい場面でも、仲間と協力することで新たな解決策を見出し、達成感を味わうことができます。

#### □読書習慣 〔③〕

読書活動は、知りたい情報を探したり、豊かに想像したりすることができるようになります。新たな発想を創造する原動力につながります。

このように、児童が基礎・基本の学力を活用し、仲間と協力して新しい発想を生み出す力を育むため、学校の授業づくりや学習習慣が重要だと考えます。児童が「わたしは漢字を覚えたいから、○日までに毎日2個ずつ新出漢字を書いて覚えていこう!」といったように、見通しを持って計画を立て、試行錯誤を繰り返しながら達成感を感じることができる授業づくりに努めてまいります。そのために、児童のやる気につながる学習環境の整備や心のケア、集団づくりにもしっかりと取り組み、確かな学力を育ててまいります。

ご家庭でも、引き続きご支援いただきますようお願いいたします。